NPO 法人千葉自然学校 ニュースレター

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2022 夏
vol.31

今年の夏もステイホーム？…自然がホームな里山の生き物さん、ちょっとおじゃましまーす。（南房総市　平久里下）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

千葉自然学校は、持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいます。

も　く　じ

□不易流行 …2
□ろくすけ日和 …3
□千葉シニア自然大学 …3
□現場レポート …4～5
□受託・ネットワーク事業 …6
□千葉県立君津亀山青少年自然の家 …7
□南房総市大房岬自然の家
　千葉県立大房岬自然公園 …8～9
□ちば・体験活動ネットワーク
　団体紹介・会員校フィールド紹介 …10～11
□千葉自然学校スタッフ紹介 …12

不易流行

理事長 久保田 康雄

新型コロナウイルスの感染拡大も次第に収まりつつあるような状況です。街中や屋外でマスクを安心して外せるようになるのも間もなくではないかなと思いますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでございましょうか？

さて、近年子どもの自己肯定感が低いと言われております。国立青少年教育振興機構の調査によると、小学校の低学年では、自己肯定感はそれほど低くありませんが、高学年から中学生になるにつれて低下すると報告されています。自己肯定感は、自尊心、自尊感情、自己評価、自己有用感、自己信頼感などと言われることもあり、子どもの成長にとって重要な資質・能力であると考えられます。自己肯定感とは、自分をかけがえのない存在として肯定的、好意的に受け止めることができる感覚です。自己肯定感が低い人の特徴は、何をするにも自信がなく受け身で、他の人と比べてしまい、人間関係が苦手で、主体性が低いという傾向があります。また、自己肯定感の高い人は、自信があり、能動的で、物事を肯定的に受け止め、感情が安定し、生きるのが楽しいと感じ、人間関係が良好だという傾向があります。

また、最近の調査研究では、自然体験活動を行うと、子どもの自己肯定感が向上するという報告があります。自然体験活動はリアルな体験で、五感をフルに使って、直接身体を動かすような体験です。自然の中での活動は、一瞬、一瞬が試行錯誤の繰り返しで、成功体験や失敗体験の連続です。どうして失敗したのか？どうすればうまくゆくのか自分自身で主体的に考えるようになり、そして、自分で状況を判断し、次の行動を決定していくようになります。このように自己決定する能力が向上するようになると、成功・失敗の結果に関係なく、自分に対して信頼感が持てるようになり、そしてそれが自信とつながるというわけです。

また、自然体験活動は、基本的に楽しい活動であり、時間を忘れて夢中になります。そのような活動の中で、自然のすばらしさや雄大さを感じ、自然が好きになり、自分が自然の一部であることを感じ、自分をまるごと素直に認めることができるようになっていきます。このことも自己肯定感が向上していく要因だと考えられます。自己肯定感が向上する理由は、リラックスした中で、自ら考え、自己決定し、行動していくような機会が自然体験活動にはたくさんあるということです。大いに子どもの自己肯定感を高めるような活動をして行きたいと考えています。

次にネットワークの話をしたいと思います。皆さんもご存知の通り、ＮＰＯ法人千葉自然学校はネットワーク型の自然学校です。千葉自然学校に所属する会員校が２０数団体あります。例えば、修学旅行のような大人数対象の事業など、一団体では受けることの難しい場合でもいくつかの団体が協力すれば、事業を受けることができるようになります。また、実施プログラムにおいても、それぞれの団体が得意とするプログラムを組み合わせることで多様性を持たせ、提供できるようになります。「ネットワーク」として、ただつながっているだけではなく、共に仕事を通してつながるような「ワーキングネット」として機能する協働関係をめざして、日々活動しています。また、千葉自然学校は、全国的な自然体験活動のネットワークにも所属しています。新しい情報を収集したり、職員のスキルアップの研修に参加したり、大いに役立てております。主なネットワークを紹介します。

①社団法人日本アウトドアネットワーク（ＪＯＮ）
個人会員約１５０名、団体会員６８団体。アウトドアの事業や安全に関する情報交換などの事業を実施。会員団体のための保険制度を創設しています。

②公益社団法人日本環境教育フォーラム（ＪＥＥＦ）
会員数５３５名。環境教育等に関する企画、運営、情報収集、調査研究、政策提言、指導者派遣などを行なっている団体です。

③ＮＰＯ法人自然体験活動推進協議会（ＣＯＮＥ）
会員数約１９０団体。自然学校をはじめとする自然体験・アウトドア・環境教育などの分野で活動している全国の団体で構成される国内唯一最大のネットワーク組織です。

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。
また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

ろくすけ日和『ありがとうございました！』

千葉自然学校では、築200年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進め、子ども・大人のキャンプなどで皆が過ごしやすい場所を目指しています。時々テレビにも出ています！

皆様のご支援で、母屋の前面左側の茅屋根の補修ができました。

補修にあたっては、労力提供、工事費支援、加工品を購入しての支援等多くの皆様から様々なご支援をいただきました。心から御礼申し上げます。

ろくすけは、築２００年近くになります。外壁などあちこち傷みがありますが本体の躯体はしっかりしています。一代ではなく世代を超えて受け継がれることを期待して建設された建物だと思います。

今後も子どもから高齢者までの体験交流の場として、ろくすけの持つ魅力を活用してゆきたいと考えています。

この春先から、蔵を使って千葉シニア自然大学のＯＢ・ＯＧ、在校生を中心にした作品展を開催しようという企画が立ち上がっています。

急な階段に手すりを付け、２階の床板を補修し、展示用に照明も設置して…と、すべて手作りの計画で進められています。９月中下旬に開催予定です。改めてご案内しますが、作品の出展そして鑑賞へ皆さんでお出かけください。

（文：遠藤陽子／サニー）

千葉シニア自然大学　～「2022もコロナ禍で講座開催」～

コロナ禍の下、昨年度は２か月遅れで講座を開始しましたが、今年度は４月より講座をスタートしました。

コロナ禍を考慮し、毎週実施していた本科コースを取り止め、開催頻度を月１回～２回のＡコース：ちばの里山里海の自然講座、Ｂコース：天文・地球（気象・地震・地質・生きもの）講座、Ｃコース：自然と俳句講座 の３講座とし、専門性を高め野外授業を多く取り入れる講座内容としています。

聴講生を含め７０名程の受講生が集まりましたが、新規の受講生は全体の３割程で、大半がリピート生（聴講生）となり、コロナ禍の影響はかなり深刻な結果でした。

事務局はこれまでのメンバー６名体制で３コースを担当します。こちらも一部担当替えがあったもののリピートメンバーで構成、シニアの老齢化が進展中です。

各コースとも天候にも恵まれ、順調に授業が進んでおり、受講生もリピーターが多いせいか和気あいあいと進んでいます。

例えば、５月１９日に実施した大房岬とその近くの原岡海岸で実施した「森と海のセラピー・ウォーキング入門」講座では、快晴に恵まれ、森のウォーキング、ハンモック、干潮に恵まれた原岡海岸のタラソセラピーなど、童心に戻った爽やかな体験に笑顔が絶えませんでした。

コロナ禍の不安を払拭し、順調に今年度の授業が進んで行く事を願っています。

（文・写真：事務局・吉岡章次）

原岡海岸での集合写真

２月~４月 主催事業現場レポート

こども

寒さに負けるな！

冬のガチ釣りキャンプ

2/26(土)～27(日) サンセットビーチインかわな
民宿泊/海釣り

２月の厳冬期、釣り好きの子どもと釣りキャンプに行ってきました。海の状況が厳しいなかでもハゼを中心に釣り上げ、さらに春の嵐（大爆風）の中なんとか釣りができそうな港に移動し、ぎりぎりまで釣りを楽しみました。

どんな環境でも前向きにチャレンジする姿は素晴らしかったです！

ダブルヒット！で
ダブル笑顔♪

（文：佐藤昭仁／アリ）

こども

高学年スペシャルキャンプ☆

春のガチ釣りキャンプ

3/19(土)～21(月祝) 南房総市大房岬自然の家、新富浦漁港
施設泊/防波堤・小磯・砂浜で釣り

高学年対象の釣りキャンプを３日間実施しました。さすが高学年、釣りに集中…動きも軽やかです。釣果はなかなか思い通りには行きませんでしたが、魚のつき場を発見し喜ぶ子、目の前で大物を取り逃がし悔しがる子など様々でした。自然相手の活動は思い通り行かない事もあるけれど、継続は力なり。またみんなで釣りに行こう！

ねらっていた
シロギスが釣れた！

（文：佐藤昭仁／アリ）

こども

春休みスペシャル

秘密基地キャンプ

3/19(土)～21(月祝) 南房総市大房岬自然公園
テント泊/ロープワーク、秘密基地作り、たき火

キャンプ１日目は嵐でビジターセンターに避難！次の日の準備、作戦会議を行いました。翌日は晴天！作戦をもとに竹を切り、基地を作りました。おやつのポップコーンで元気もりもり♪野外炊飯では最高のカレーが完成！夜はたき火でマシュマロタイム。最後まで遊び倒した春休みの３日間でした。

基地作りの基本
ロープワーク…。
えー！どーなってるのー？

（文：佐藤昭仁／アリ）

大人

房総を歩こう

陽光きらめく新舞子海岸を歩く

3/12(土) 富津市　新舞子海岸・上総湊周辺
古道、海岸散歩、ハイキング

暖かい日差しの中、新舞子海岸を中心に古道歩きを楽しんで来ました。案内人・川崎勝丸さんの軽快なトークが場を和ませてくれます。

海岸の一部が岬になっていて、潮が引いてないと足が濡れてしまうコースでしたが、潮の時間を読んでいたので全員無事に通過！誰もいない砂浜でのんびりお弁当を頂きました。陽光きらめく内房の海岸は、潮騒の音が静かに響く素敵な場所でした。

きらめく海岸と潮騒が
心地良い…
最高のハイキングでした。

（文：佐藤昭仁／アリ）

大人
こども

春の大房岬で遊ぼう!

野遊びDAY

4/2（土）　南房総市大房岬自然公園
アウトドアアクティビティ（ツリーイング、シーカヤック、SUP、磯遊び）、キャンプ体験、森林セラピー、モルック、巨大シャボン玉

毎年４月の初めに実施していたさくらフェスタがコロナ禍で中止となってはや２年…。

今年は大房岬でいろいろな「野遊び」を楽しめる日、という事で名前を「野遊びＤＡＹ」に新しくし、形式を変えて開催しました！

例年は、大房岬内で一番広い運動園地で出店を募り実施していましたが、せっかく大房岬に来て運動園地だけで終わりではもったいない、もっと大房岬を満喫してほしい！という思いで、今年は園内の複数の場所にブースを設置して、自然体験やアウトドアアクティビティなどを楽しめるようにしました。

感染症対策でアクティビティは予約制で実施し、予約なしで来られた方も含めおよそ５００人の方が来園されました。

リニューアルした春の一大イベント。アウトドアの体験を身近に感じてもらえたら幸いです。

また大房では夏に向けて様々なイベントを計画中！ぜひご参加ください。

運動園地では
「巨大シャボン玉」
展望塔前では
「キャンプグッズの体験」
岬のふもとでは「SUP 体験」!
森も海もイベント満載な
1 日でした★

（文：伏谷海斗／ふうせん）

≪受託・ネットワーク事業≫

都立中学校の体験プログラムコーディネート＠南房総

毎年お受けしている都立中学校のプログラムコーディネート。コロナ禍の影響もあり２年ぶりの実施でした。英語学習やチームビルディングも組み込まれた２泊３日の行程ですが、目玉は２日目の体験プログラム。「酪農」「棚田」「無人島」「森づくり」の４つのコースに分かれ、それぞれの体験先で、子どもは熱心に話を聞き、活動に取り組んでいました。

特に印象的だったのは、振り返り発表会でのこと。各コースで体験したことを発表してくれたのですが、体験の内容だけではなくそこで出会ったスタッフの人柄にふれる班がほとんど。それもそのはず…体験をお願いしたのは、地域を代表するスペシャリスト達。子どもには、普段の生活では出会わない「田舎で生きる、かっこいい大人」として印象に残ったようです。

コロナ禍で制限されていた体験活動や人々との交流。今回久しぶりに実現し、改めてその価値を実感する事業でした。

（文：花嶋桃子／ぽにょ）

出張チームビルディング

春は、子どもも大人もドキドキわくわくする出会いの季節ですね。今年もいくつかの学校で新入生のチームビルディング（クラス作り）をお手伝いさせていただきました。

当日は、どの学校も最初こそ緊張感があるものの、体を動かして声をだすうちに、表情が和らぎ、あっという間に雰囲気が変わっていきます。その変化は、コロナ禍前よりも顕著だったように感じました。

長引いたコロナ禍のマスク生活で、友達の表情はよくわからず、食事は非対面の黙食、接触や大声を出すことも制限されている状況の中、新しい環境で友達を作るきっかけを作れずにいる生徒さんも多いと聞きます。非日常の時間の中で、仲間とコミュニケーションを取る楽しさを体験してもらうことで、今度は彼ら自身が日常生活を豊かにしていくための気づきにつながっていけばと願うばかりです。

（文：佐藤玲子／かつを）

「学校キャンプ！」でのプログラム協力

ゴールデンウィークに睦沢町と成田市で開催された廃校活用イベント「学校キャンプ！」にプログラム提供をさせていただきました。イベントに参加されるご家族やグループの皆様に、地域の自然を楽しんでもらう体験ができないかと相談を受け、ご提案したのは、好きな時間に参加できるセルフガイド型の「自然探索ツアー」（睦沢のみ）です。

自然に関するクイズや五感や体を使うポイントだけでなく、地域に目を向けるようなポイントも盛り込みました。今回は、作ったパッケージプログラムを提供するのみという形での協力でした。当日の様子が見えずドキドキしましたが、たくさんの方々にお楽しみいただけたと運営側の方からご報告をいただきました。

「学校キャンプ！」は夏休みにも開催されます。興味のある方はぜひ足を運んでみてください。

（文：佐藤玲子／かつを）

～ きみかめ便り ～

千葉県より指定管理を受け、「君津亀山青少年自然の家」の管理・運営を行っています。清澄山系から連なる自然度の高い森の中に建つ、最大宿泊者数300人規模の施設となっています。プラネタリウムの投影や芝の斜面を生かした芝すべり、カレーや石窯ピザなどの野外調理、思い出のクラフト作成など47種類ものアクティビティをご用意しております♪

千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県立君津亀山青少年自然の家　　所長 庄司達哉

「おじいさんは山にしばかりに…」

有名な昔話の冒頭部分「おじいさんは山にしばかりに…」。子どもの頃に一度は聞いたことがあるフレーズではないでしょうか。では、「しば」とは何のことでしょうか？「芝刈り？」でも、山には普通芝生はないですね。

おじいさんがかっていたのは芝ではなく「柴(しば)」です。柴とは山野に生える小さな雑木やそれを切って薪などにしたもののことを言います。柴刈りとは木の枝を刈って集めたり、地面に落ちている枯れ枝を集めたりすることです。昔は炊事やお風呂のために薪・焚き木が生活の中では必需品でした。このため定期的にしばかりをする必要がありました。また里山や雑木林は放置すると荒れ放題になります。定期的にしばかりをすることが森の適切な整備につながります。ただし、今は生活の中で柴を使う家庭はほとんどありません。このため、多くの里山・雑木林が放置され、荒れている現状です。

きみかめの活動の一つに「木のスプーン・フォークづくり」があります。これは森で枝を切る、枝を拾うなどの「しばかり」をし、その枝を使ってスプーン・フォークを作る活動です。

きみかめで「山にしばかりに」、行ってみませんか？

きみかめ掲示板

【イベント報告】 5月21日(土)
あつまれきみかめの森　アウトドアクッキング

きみかめのアクティビティを気軽に楽しんでもらおうというイベントです。今回は『ピザ作り』！粉からピザ生地から作って、特製のドラム缶釜で焼き上げます。各グループ、協力しながら一生懸命生地をこねます。トッピングの配置も自由に飾り、美味しいピザを焼き上げていましたよ。雲行きが怪しい天気でしたが、なんとかもって、美味しい、楽しいピザ作りとなりました。

やっぱり外で作って、食べるのって気持ちがいいですね♪　　香山

【自然情報】 梅の実

少しずつ夏の陽気に変わり、春を告げた花も実をつけ始める時期がきました。きみかめでも梅の実が大きく実り、春から夏への移り変わりが感じられます。

周りを見渡すと、木々が葉を大きく広げたり、昆虫の羽化が始まるなど、生きものたちが夏に向けて準備をするので、きみかめの森は大賑わいです。

みなさんも身近な自然で夏に向けて準備をしている生き物たちを探してみませんか？

武田

～ たいぶさ便り ～

南房総市、千葉県よりそれぞれ指定管理を受け、「大房岬自然の家・食堂」「大房岬自然公園」の管理・運営を行っています。

海と森の両方を楽しめる豊かな自然を活かしたプログラム・イベントが人気で、地元の方や千葉県内の方はもちろん、県外からも多くの方々が訪れます。

南房総市大房岬自然の家　所長 神保清司

夜7時「いくぞー！おっきいお風呂だー！」と廊下を走りぬけて先生に注意されます。
夜9時「そのパジャマかわいい！！」とロビーで髪を乾かしながらぺちゃくちゃおしゃべり。
朝6時「おれさー○○の夢見てさー…」と先生に夢の内容を伝えます。
朝8時「先生！わたし4時に起きたよ！」と自慢します。

学校団体の子どもが帰ってきました。大房岬は繁忙期を迎えています。丸2年、学校の行事をはじめ様々な経験を積む機会を失った子どもです。自然の中の遊びも学びも大切ですが、短くても一緒に寝泊まりした思い出は、その後の人生を豊かにしてくれるのだと思います。

この場所と機会をしっかり守っていきたいと思います。

千葉県立大房岬自然公園　公園長 山口亮介

カモが2羽、公園にモーリー池で泳いでいるのが見られるようになりました。毎年いるわけではなく、突然やってきました。散歩の方や森のようちえんの子どもには人気者ですが、困ったことも。毎年春に産まれるオタマジャクシたちが、どうやらこのカモのエサになってしまっているようで激減してしまっています。オタマジャクシ（カエル）が減ればそれを食べるヘビも減り、今度はヘビを食べるフクロウが困ってしまいます。生きものの絶妙なバランスが崩れつつあります。

さて、このかわいい来訪者はどうしましょうか？

株式会社 体験と健康　料理長 松田光央
（南房総市大房岬自然の家食堂、千葉県立君津亀山青少年自然の家食堂　運営）

自然の家で提供する食事には、地元産の食材を多く使う「地産地消」に力を入れています。例えばご飯は「日本の棚田百選」に選ばれた大山千枚田のお米、主菜副菜には地域の青果店から仕入れた新鮮な野菜や果物など、出来る限り県内の食材を意識して使うようにしています。今年度からは新たに南房総市平久里で作られている“ろくすけ味噌”を使用しています。大豆と塩、そして地元産のお米を使った麹で作られた無添加のお味噌は、大豆本来の風味がしっかりと残った奥深い味となっており、お客様からは好評の声を多くいただいています。

これからも地域に根差した食事を提供していきたいと思っています。そのためにもこれからも出来る限り「地産地消」を考え地域の食材を使用していきます。

taibusagram

大房岬の
とっておきの瞬間
をご紹介します！

Taibusa-misaki

いいね！564件

夜の浜を歩く

仕事終わりに何とはなしに夜の浜に降りてみました。すると、足の踏み場もないほどたくさんのハマダンゴムシが！日中、砂の中にいるハマダンゴムシは、夜になると漂着物を食べに出てきます。せっかくなので彼らを観察してみました。

普通のダンゴムシより一回り大きく、同じ場所にとてもたくさんいるため気持ち悪がられることが多いですが、生き物の死骸などを食べて砂浜を綺麗にしてくれる、人間にとっても大事な存在です。50年後100年後もきれいな砂浜であるためには、彼らの存在が大切になります。

今まで見たこともない量のダンゴムシの群れはとてもインパクトがありました。好き嫌いはあると思いますが、夜の砂浜に行く際はぜひ注視してみてください。　伏谷

#自然観察　#ビーチコーミング

たいぶさ岬掲示板

イベント報告

磯の生き物発見ツアー

今年も潮のいい時期に磯の生き物発見ツアーを実施しました。5月の海水温はまだ低く、水に入ると「冷たい！」と、あちこちから声があがりました。はじめは恐る恐る岩を動かし網でガサガサしていた子どもでしたが、水温に慣れてきたころにはアメフラシやハゼなど、たくさんの生き物を捕まえていました。

初めて見る生き物たちを触りながら観察し、自然の面白さをたくさん感じてもらいました。　伏谷

イベント報告

岬のジュニアレンジャー　水生生物調査隊

大房岬の池や滝などにどんな生きものがいるのか調査をしました。網ですくったり、石をどかしてみたり…。たくさんの生きものを見つけ、記録をしました。なんと今回は「ヌマガエル」という、今まで大房岬では発見されていなかったカエルを見つけることができました！今後も新たな種を発見できるかも！？

岬レンジャーの活躍にぜひ期待して下さい！　清水（旭）

生きもの紹介

鋭いトゲには毒がある！「ハオコゼ」

潮だまりなので見つけることができる、10センチ程度の赤や白が入り混じったかわいい魚です。かわいいからと言って素手でさわり、棘が刺さってしまうとその日は1日気持ちがブルーになってしまうくらい痛みます。磯遊びをする際は、ハオコゼのように自分の身を守るために毒をもつ生きものに出会うことが多いので手袋をつけましょう！　清水（旭）

≪ちば・体験活動ネットワーク≫ 千葉を元気にする会員校をご紹介！

千葉自然学校は、**ネットワーク型自然学校**として
『自然体験活動を通して千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指す』という趣旨に賛同頂いた県内の体験活動団体を中心とした皆様が、**『千葉自然学校ネットワーク会員校』**としてネットワークを形成し、環境保全や地域振興を図ることを目的として設立されました。
県内外からの教育旅行や、拠点である青少年教育施設での体験受入、その他様々な事業連携の取組を行っております。

株式会社かずさアカデミアパーク(かずさアーク)
営業企画課(広報担当)　市原　桂さん

セミナー　音楽　宿泊

東京湾アクアライン経由で都心から約 60 分。会議はもちろん展示会や発表会などのイベントの他、ニーズに併せて幅広く利用できる水と緑に囲まれた複合施設の今をお伺いしました。

～「人」と「自然」と「文化」が交流する次世代リゾート空間 ～

<施設紹介>
房総半島の中西部木更津市の上総(かずさ)丘陵に佇むコンベンションホールやホテルなどからなる、リゾート複合型コンベンション施設です。今年の 2 月に開業 25 周年を迎えました。
700 席の国際会議場をはじめ、大・中・小の会議室を擁する『かずさアカデミアホール』は、国際会議や企業研修はもちろんイベントやコンサートなど、様々なお客様のニーズにお応えできる高水準の設備と、水と緑に囲まれた自然豊かで静かな環境、ホテルオークラによるきめ細やかなおもてなしで県内外のお客様をお迎えしております。
また、このコンベンションホールに隣接する『オークラアカデミアパークホテル』は全 125 室のゲストルームと、6 つのレストラン&バー、上総・南房総エリア最大級のバンケットルームを含めた 10 室を備え、ホテルオークラのおもてなしの原点として、継承されてきた「ベスト ACS」の精神。ホテルの 3 本柱である施設(A=Accommodation)、料理(C=Cuisine)、サービス(S=Service)のすべてを、常に最高の状態でお客様に提供していくという企業理念を受け継ぎ、地元に根付いたホテルを目指しております。
私どもかずさアカデミアパーク(愛称:かずさアーク)は、この 2 つの施設を中心として、人と自然と文化が交流する次世代リゾート空間を提供しております。

解放感溢れるホールメインロビー

<現状>
2019 年 9 月の台風 15 号は『かずさアカデミアホール』にも甚大被害をもたらし、建物天井などに大きなダメージを負うこととなりました。翌年 2020 年 9 月より約半年をかけて屋根・天井部の改修工事を実施し、2021 年 3 月に完了いたしました。工事期間中はコロナ禍とも重なったこともあり、会議室の稼働が著しく低くなり、また例年夏に開催していた親子向けの自主企画イベントなども開催できませんでしたが、2022 年度は会議室の稼働率アップを目標とし、また自主企画イベントの実施など積極的に開催する予定です。

<今後の展望>
先にも記した通り、今後は千葉自然学校の会員校様との交流を今まで以上に深めることで、自主企画イベントを積極的に展開し、イベントを通し地域の皆様と会員校の皆様の交流できる場を設け、上総・南房総エリアにおいて千葉の魅力を伝える中核施設としての役割に努めたいと思っております。これからも会員校の皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

水と緑に囲まれたホテルとホール

取材:香山正幸（かやまん）

千倉町民宿組合
組合長　堀江 洋一さん

里海　宿泊

千倉町民宿組合の周辺には、青い海と白い砂浜の千倉海岸や、日本で唯一料理の神様を祭る高家神社など見所が満載。おいしい食事と心休まる憩いの宿を求めての滞在はもちろん、地域の素材を活かした体験プログラムを目的に教育旅行での利用も多数です。

【千倉町民宿組合について】

平成 17 年「花の民宿・おもてなし宣言」が展開され、民宿の取りまとめをはじめました。翌年には日本観光協会主催の「花の観光地づくり大賞」でを受賞し、高い評価をいただきました。このことをきっかけに、後継者の育成や、新しいターゲットの拡大を目的に教育旅行の受け入れを始めました。

各民宿は兼業で第一産業を生業としている方が多かったため、サザエカレーづくり、魚捌き体験、海女・海士体験など自然に接する体験を提供することができました。特に食にこだわり、高家（たかべ）神社での包丁式を通じた命の大切さなどを伝えるプログラムに力を入れて取り組んできました。

【抱える課題について】

東日本大震災やコロナ禍の影響、民宿のオーナーの高齢化なども重なり、教育旅行の数自体が減少してきていることが課題として挙げられます。特に規模の大きな学校は難しくなってきているので、小学校などを中心に現在は受け入れを行っています。

【今後の展望について】

これからは教育旅行だけでなく、幅広い分野の方たちに来ていただけるようなプログラムを作っていきたいと考えています。福利厚生で離職防止をねらったリフレッシュプログラムや、民宿の方が作る料理教室など、田舎暮らし体験や、郷土料理教室などを中心に売り込んでいきたいと思います。

また、SDGs の達成が叫ばれている現代です。漁業においては獲る漁業から、育てる漁業に取り組んでいます。今いる高齢者がやってきた生活スタイルこそが、SDGs の達成につながっていくのだと思っています。そのような地域の魅力ある資源をプログラム化し、この地域の活性化につながっていけばよいと思っています。

取材：白井健（ネギ）

【北総エリア】

•ワイズスノー＆アウトドアスクール •NPO 法人佐倉みどりネット •一般社団法人千葉県環境財団 •千葉伝統郷土料理研究会 •さんむアクションミュージアム
•一般社団法人千葉県観光公社 •ヤックス自然学校（株式会社千葉薬品） •林造園土木株式会社 •株式会社 HMC 東京旅行事業部 •有限会社銚子海洋研究所
•ピーちゃんクラブ•ぬく森くらぶ •食と農の体験工房「よもぎ館」 •国民宿舎サンライズ九十九里 •「わたしの田舎」谷当工房 •スコープジャパン株式会社
•ちば千葉国際コンベンションビューロー •東京クラシッククラブ

【上総エリア】

•Live Stock •上総自然楽校 •千葉県立内浦山県民の森 •NPO 法人大山千枚田保存会
•NPO 法人市津•ちはら台自然学校 •特定非営利活動法人ちば里山センター •NPO 法人里山会 •株式会社かずさアカデミーパーク

【南房総エリア】

•一般社団法人森のようちえんはっぴー •NPO 法人たてやま•海辺の鑑定団 •岩井民宿組合
•白浜オーシャンリゾート •株式会社ちば南房総（道の駅とみうら 枇杷倶楽部、道の駅三芳村 鄙の里、
道の駅おおつの里 花倶楽部、道の駅ローズマリー公園、道の駅富楽里とみやま） •千葉県立館山野鳥の森
•千倉町民宿組合 •千倉オレンジセンター

一緒に千葉を元気にしませんか？
会員校募集中！
【お問い合わせ先は裏面をご覧ください】

千葉自然学校スタッフ紹介

坂井 遥（うつぼん） 南房総市大房岬自然公園

兵庫県神戸市出身。海洋系の大学院でウツボの研究をしていました。研究で毎日海に潜るようになり、訪れるたび新しい出会いがある自然に魅了されました。そして、そんな自然の魅力をたくさんの人と共有したいと思い、千葉自然学校に入社しました。

大房岬自然公園でキャンプをしてみませんか？
お待ちしています。

ウツボを中心とした海の話を聞きに、ぜひ大房岬自然公園に遊びに来てください！関西弁が恋しい方も大歓迎です！

ビジターセンターでお待ちしています。

【資格】
- アドバンスド・オープンウォーター・ダイバー（PADI）
- スノーケルインストラクター（JUDF）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）

【得意分野】
ウツボ／海の生き物

【好きなこと】
海で泳ぐこと／貝殻拾い／自然散策

千葉自然学校のミッション

体験活動を通じ
- だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
- 地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ
- ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす

千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

ご寄付のお願い～古民家ろくすけの修復に向けて～

そろそろ築 200 年になろうとしている古民家「ろくすけ」。これまで多くの子どもやシニア世代の自然体験・地域交流の場として使用されてきましたが、母屋の屋根の損傷が著しくなってきました。その他、外壁なども劣化が目立っています。今までも皆さまからの協力で修復を続けてまいりましたが、再度ご協力のお願いになります。皆さまからのご支援をお待ちしています。（一口 3,000 円）

▼振込先（郵便局/払込取扱票を使用）
振替口座　00170-5-259431
加入者名　特定非営利活動法人 千葉自然学校
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先（銀行）
千葉銀行　千葉駅前支店　普通　3740275
特定非営利活動法人　千葉自然学校　理事長　久保田　康雄
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所（下記）へお知らせください。

発行：**NPO法人 千葉自然学校**

■千葉事務所　〒260-0015　千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階
電話：043-227-7103／FAX：043-202-7237
ホームページ：http://www.chiba-ns.net　メールアドレス：info@chiba-ns.net